

1 身近な名詞を中心にした遊び方

人体図ゲーム

その名の通り、人間の体の部位をそれに該当する漢字で示します。

さしあたり「顔」の部分から始めてみましょう。

用意するカード 耳、口、目、鼻、頭

画用紙や模造紙に顔を大きめに書きます。該当する部位にカードを置さながら読みあげていきます。これを何回か繰り返した後、今度は子どもにさせてみましょう。自分でカードを置くようになったら、記憶は一段と深められたといえます。

この遊びは、人間の顔だけに限定する必要は全くありません。猿でも象でも、絵を示してその部位を漢字で当てさせることができます。

さらに変化をつけ、動きを持たせた遊び方もあります。

タッチゲーム

用意するカード 頭、顔、手、足、指、首、肩など

最初にお母さんがお手本を示してみましょう。カードを見せながら、子どもの体の、漢字に該当するその部位をタッチします。「ハイッこれ

は“足”」とカードを読みあげて、足におさわり、というわけです。頭、顔、手……とこれを繰り返します。慣れてきたら、ジャンケンをして、勝った方がカードを見せて、負けた方がタッチ、と変化をつけて楽しく遊んでみましょう。

食べものゲーム

子どもの大好きな食べものは、何といってもカレーライス。一体、何が材料になっているのか、どうやってつくるのか、子どもにとってきっと関心のあるところでしょう。そこでカレーライスをつくりながら、材料にする食べものを漢字で示してみます。といっても、本当につくりながらではありませんが。

用意するカード 人参、玉葱、じゃが芋、豚肉、鍋

これらの漢字カードと、カレーの空箱、それにちょっと大きめの鍋があればなお結構でしょう。

カレーライスをつくる手順にそって、鍋にカードを入れていきます。もし、わかりにくそうならば、本物の人参や玉葱を用意するなり、あるいは簡単に絵をかいて、それと一緒にして鍋に入れて遊んでもいいでしょう。子どもの大好きなカレーライスのつくり方に、きっと興味をそ

そられること間違いなし。

もちろん、カレーライスだけにこだわる必要は全くありません。スキヤキ、寄せ鍋、あるいはお弁当などで応用しても、楽しさは変わらないでしょう。

仲間あつめ

動物、乗り物、植物など、同じ種類のカードで遊ぶもの。ここで注意したいのは、「仲間」という言葉が子どもにとって少々理解しにくいかも知れないことです。ですから、「仲間」の説明に余り深入りしないで、動物なら、足が四本あって自分で歩くものとか、乗り物でしたら、人が乗って遠くへ行くもの、動くものが、それぞれの仲間という意味ですと、サラッと説明する方がよいでしょう。

(1)動物の仲間

犬、猫、馬、牛、豚、羊などのカードを使ってみましょう。単調になりそうでしたら、動物の泣き声で当てさせるのも楽しいでしょう。

「泣いた、泣いた、なあにが泣いた、ニャオー」

「猫！」

「ハイ これが“猫”」

という具合で、順番に試してみる方法です。

(2)乗り物の仲間

電車、汽車、自動車、自転車、三輪車などを使います。自転車や三輪車は、もし家にあったら、漢字カードをつかって貼っておいてもいいでしょう。電車や汽車などは、絵とともに、漢字を示しても結構です。

これらはいずれも陸上を走る乗り物ですが、「では空を飛ぶものは？ 海や川を渡るものは？」と

いうふうに、飛行機、船と、広げていくこともできますし、自動車のなかにも色々と種類がありますから、消防自動車、救急車と、用途別の自動車を漢字で表わす工夫も可能になります。いずれにしても、同じジャンルに属する漢字を示すことで、一そうわかりやすく覚えるのが、この遊びのねらいといえます。

桃、柿、栗、梨、苺などのくだものを集めたり、梅、桜、菊、椿などの花を仲間として示す方法、あるいは、雨、雲、雪、風などの自然現象を用いたり……と様々に選択して遊んでみてください。

仲間はずれ

仲間集め の遊びに慣れてきたら、その反対の 仲間はずれ 遊び

もやってみましょう。

用意するカード 犬、猫、馬、牛、豚、電車、桃など

これらのカードを読みながら、順不同に並べていきます。そのあと、子どもに読ませてもらいます。

そこで、

「動物の仲間でないのはどれ？」

と尋ねてみましょう。

段々と種類を多くし、カードを増やしていきます。いきなりたくさんのカードを並べずに、やってみる事です。もしわからなければ、もう一度 仲間集め 遊びにもどってください。あせりは禁物。何回でも繰り返すのがコツです。

こうして、三種類ほどの 仲間集め ができるようになり、仲間はずれ にも慣れてきたら、少し“複雑”な遊び方に移ってみましょう。

「動物」「乗り物」「くだもの」カードを各五枚ずつそろえ、トランプのようきってまぜてしまいます。それを一枚ずつ上から取らせて、それを読ませ「これは何の仲間かな？」と聞きます。答えたら、下に置かせます。これを順番に一枚ずつ分類しながら漢字を読むのです。三種

類、計五枚ずつのカードが山になったら正解というわけです。

仲良しさん

これは 仲間集め の“変形”の遊びです。子どもの興味に応じてテーマを選び、それぞれの漢字と“仲良し”の漢字を見つけさせるものです。ここでは、最初に出した身体に関する漢字を使ってみます。

用意するカード 頭、目、手、足、帽子、眼鏡、手袋、靴

まず、帽子、眼鏡、手袋、靴の漢字を読みます。そのさい、“頭にかぶる”帽子、“手にはめる”手袋……と少し説明しながら読みます。実物があれば、それを見せて漢字を示してもいいでしょう。

つぎは、子どもに、自分で仲良しさんの漢字を当てさせます。頭 -

帽子、目 眼鏡、手 手袋、足 靴、というようにカードを拾って読ませるわけです。

花 花瓶、雨 傘、指 爪、箸 茶碗、馬 人参、鍋釜……とたくさんできるでしょう。

なぞなぞ遊び

これは一種のカルタ取りです。カードを並べておいて、お母さんがなぞなぞをいい、答えを考えさせて、わかったらカルタ取りの要領で、

カードを拾わせる方法です。

これまでに提示した漢字と、いくつかの新しい漢字でつくったなぞなぞを、順不同であげてみます。もちろん、なぞなぞの「内容」はこれに限るわけではありませんから、よりおもしろいものを考えてみてください。

(例)

赤い顔をして、ひっかくこともある動物は何？

〔猿〕

ここ掘れワンワンといった動物は何？

〔犬〕

お空にフワフワ浮んでる白いものは何？

〔雲〕

ピカッと光って、ゴロゴロ、ゴロゴロっておこりんぼうなのは何？

〔雷〕

お馬さんの大好きな食べものは何？

〔人参〕

いつも早起きコケコッコって鳴くのは何？

〔鶏〕

リーンと鳴ったらモシモシっていうのは何？

〔電話〕

雨の日にチャップチャップって歩く時にはくのは何？

〔長靴〕

花から花へヒラヒラ飛んでいくのは何？

〔蝶〕

いくらでもできそうですが、子どもの読める漢字が一定数になったら、カルタ遊びのつもりで、なぞなぞをつくって試してみてください。また、お母さんから子どもへと“一方通行”にやるだけでなく、子どもに、ごく簡単ななぞなぞをつくってもらうのも楽しく遊べる方法でしょう。

買いものゲーム

子どもに身近なお店屋さんを選んで、お母さんと一緒に買いものをする遊びです。八百屋さんを例にとってみましょう。

用意するカード 大根、人参、玉葱、じゃが芋、梨、苺

子どもが八百屋さんになり、お母さんが買いものに行きます。

「もしもし八百屋さん、大根ひとつくださいな」

などとお母さんがいって、並んだカードの中から大根のカードを子どもに探させてみます。これを順番に繰り返します。

立場を変えて、お母さんが八百屋さんになったりして変化をつけてみましょう。そのさい、わざと間違えて、「大根」と子どもがいったら「人参」を選んでみたりしてみるのもおもしろいでしょう。あるいは前に出てきた仲間はずれ遊びを応用して、野菜のカードの中に、自動車とか時計のカードをまぜておき、「八百屋さん売ってないものはなあに？」と問いかけてみるのも、遊びに、より変化が出てきて楽しくなります。

品物あてゲーム

お部屋の中で、手軽に持ち運びのできる品物の漢字カードを見せて、その品物を実際に持ってこさせる遊びです。別巻の漢字カードの中からいくつか選んでみましょう。もちろん、事前にその品物に該当する漢字を何回か読みあげてからやってみます。

用意するカード 新聞、鉛筆、鋏、絵本、帽子、手袋、箸など

これとは反対に、持ち運びのできない品物を当てさせるゲームもで

きます。漢字カードでその品物を示し、それを当てさせればいいわけです。

冷蔵庫、花瓶、洗濯機、机、椅子、布団、畳、戸棚などのカードを見せて、「ハイ、どこにありますか」と問いかけてみます。その品物のあるところへ行って、実際に指をさすようにするといいでしょう。

このような、身近にありながら、いつでもサッと取り出すわけにはいかないものの場合、あらかじめ漢字カードをつくって、それに貼っておいてもいいのです。柱、壁、障子、廊下、階段、便所、風呂……と、いくらでもあります。折りにふれ、「これなあに？」と問いかけてみましょう。きっと、自慢げに「柱！」「壁！」と答えるでしょう。

家族探しゲーム

お父さん、お母さん、お兄さん、お姉さん、弟、妹といった家族に関する漢字を提示するゲーム。

前に出したなぞなぞ遊びに近いもので、若干、ストーリー風に遊んでみましょう。お話をしながら、そのつど漢字カードを示してください。

「ちゃん(子どもの名前)のお父さんとお母さんはとっても仲良しです。お父さんは朝、会社へ行きます。お母さんは洗濯をしたりご

はんをつくったりします。お兄さん(お姉さん)は毎日学校へ行きます。学校から帰ると、お兄さん(お姉さん)は「ちゃんと遊んでくれます」……

これに慣れたら、お話に出てくるカードをならべておいて、子どもに「お父さんと仲の良い人はだれ?」とか「毎日、学校へ行くのはだれ?」となぞなぞ風に尋ねて、該当するカードを拾わせてみてください。

こんなふうに家族構成に合わせて、お爺さん、お婆さん、弟、妹を登場させ、一日の生活のストーリーに織りまぜて漢字を読みます。よくわかるようになったら、逆に子どもに家族の漢字カードを使って、ごく簡単なお話をつくらせてみましょう。

これを発展させると、子ども自身の一日の生活を追っていくことで、家族だけでなく、もっと広がりを持ったお話の中に、様々な漢字を織り込ませることができます。一方的にお母さんが語りかけろだけでなく、子どもとの話し合いを通じて、漢字を示すようにしてみましょう。

(例)

朝起きてから顔を洗って歯をみがきました。それから、バスに乗っ

て幼稚園に行きました。先生と漢字で遊びました。昼にみんなでごはんを食べました。幼稚園には男の子も女の子も大ぜいいます。おうちに帰ってきてから友達のくん、ちゃんとも遊びました。夜になるとお父さんも帰ってきました。お父さん お母さん(お兄さん お姉さん 弟 妹……)と一緒にごはんを食べました。

これだけで十いくつかの漢字が出てきます。もちろん、これらの漢字を一度に全部提出する必要はありません。家族や友達に力点をおいたり、一日の時の流れに重点をおいて「朝」「昼」「夜」を理解させたりと、変化を持たせましょう。要は、子どもの興味、関心がどこに向いているかを察知して、話を進めることが大事なのです。

もし、日曜日に公園や遊園地で遊んだことが印象に残っているようでしたら、「公園」「遊園地」「滑り台」「砂場」「噴水」「鉄棒」といった漢字カードで遊べるお話をしてあげればいいし、病気になって病院へ行ったことが、強く印象付けられているならば、「病気」「病院」「藁」「包帯」「注射」「医者」「歯医者」などのカードを使ってみてください。子どもたちにとって、生活に密着した身近で興味深い内容であるほど、驚くような記憶、理解力を示すことでしょう。